オオサカインターナショナルチャーチ　　ダニエル・エルリック牧師　　2013 年 12 月 29 日
シリーズ: ヨナ書#1　　聖書箇所: ヨナ書 1:1-3　　中心聖句: ペトロ第二 3:9
タイトル: 神からの逃亡　　特別行事:

I.　導入

おはようございます。**ヨハネ 7:37** には、救いを求めて自分のもとに来るよう人々を招くイエスが描かれています。**「 祭りが最も盛大に祝われる終わりの日に、イエスは立ち上がって大声で言われた。『渇いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。』」** これを聞いて多くの人がイエスを信じました。信じるに至らなかった人も、イエスは神から遣わされた預言者だと思いました。ニコデモはファリサイ派の仲間たちに対し、先入観を持たずにイエスの話を聞くよう勧めましたが、彼らはまったく取り合いませんでした。**ヨハネ 7:52「 彼らは答えて言った。『あなたもガリラヤ出身なのか。よく調べてみなさい。ガリラヤからは預言者の出ないことが分かる。』」**

イエスのもとに行って受け入れようとはせず、イエスを門前払いにしました。また、ファリサイ派の人々は、みことばを熟知しているという評判に反し、誤った認識を持っていました。イエスを排除しようとするあまり、ガリラヤから預言者は出ないと言ったのです。しかし、これは間違いです。旧約聖書の預言者でガリラヤ出身の人が誰だかわかりますか。

では、**列王記下 14:23-25** をご覧ください。**「 14:23 ユダの王、ヨアシュの子アマツヤの治世第十五年に、イスラエルの王、ヨアシュの子ヤロブアムがサマリアで王となり、四十一年間王位にあった。 14:24 彼は主の目に悪とされることを行い、イスラエルに罪を犯させたネバトの子ヤロブアムの罪を全く離れなかった。 14:25 しかし、イスラエルの神、主が、ガト・ヘフェル出身のその僕、預言者、アミタイの子ヨナを通して告げられた言葉のとおり、彼はレボ・ハマトからアラバの海までイスラエルの領域を回復した。」**

この個所は、預言者、アミタイの子ヨナがガリラヤ地方の小さな町ガト・ヘフェル出身であると語ります。この町は、イエスの故郷ナザレのほど近くです。ファリサイ派の人々は、このことを忘れてしまったようです。ヨナのことをあまり好意的に思っていなかったからかもしれません。イエスと同様、ヨナはユダヤ人と異邦人に語りました。列王記下のこの個所には、ヨアシュの子ヤロブアム王も登場します。これはイスラエル王国の二人目のヤロブアム王です。彼は王として力を発揮しましたが、主の目に悪とされることを行いました。ヨナが預言者として活動したのは紀元前 800～750 年頃で、ヤロブアムの治世を含む時代です。

これから 5 週間、ヨナ書をともに学びます。ヨナ書は、「とどまることのない神の恵みの物語」と言われることもありますが、学びを通して皆さんもそのように思われるでしょう。他の預言書とは違い、ヨナ書のほとんどは歴史の記述です。そこには、イエスの来臨を予め示す内容も含まれます。ヨナの預言した内容はほんの少ししか記録されていません。この書の大部分は、ニネベに赴いたヨナの宣教の旅についてです。しかし、読んでわかるとおり、ヨナは喜んでその旅に出かけたのではありませんでした。では、ヨナ書 1:1-3 を読みましょう。

II.　聖書朗読　(ヨナ書 1:1-3、新共同訳)

1:1 主の言葉がアミタイの子ヨナに臨んだ。 1:2 「さあ、大いなる都ニネベに行ってこれに呼びかけよ。彼らの悪はわたしの前に届いている。」 1:3 しかしヨナは主から逃れようとして出発し、タルシシュに向かった。ヤッファに下ると、折よくタルシシュ行きの船が

見つかったので、船賃を払って乗り込み、人々に紛れ込んで主から逃れようと、タルシシュに向かった。

III.　教え

では、詳しく見ていきましょう。**ヨナ 1:1「 主の言葉がアミタイの子ヨナに臨んだ。」**預言の働きは、預言者の努力や知恵でなされるものではありません。主から与えられるものです。聖書で一貫しているのは、預言者の働きが、**「 主の言葉が･･･臨んだ」** といった言葉で始まることです。努力して預言者になろうとする人もいますが、人の働きによるものは、誤った預言や思い違いにつながります。教会に預言者がいると聞いたら、気をつけなければなりません。主の言葉は喜んで聞きたいものですが、にせ預言者がいるのも事実です。ですから、注意して見分ける必要があります。

主はヨナに語り、次のように命じられました。**(ヨナ 1:2)「さあ、大いなる都ニネベに行ってこれに呼びかけよ。彼らの悪はわたしの前に届いている。」**主はすべてを見ておられますし、すべてをご存じです。しかし、ある特定の人や場所に注目されることがあります。 この場合、ニネベの悪が主の目に余るものとなりました。ここで神は、この町を滅ぼさず、イスラエルの預言者を召してニネベの人々に正しいことを教えるよう命じられました。

ところで、この個所でニネベは大いなる都と呼ばれていますが、歴史研究家や考古学者もこの事実を確認しています。ニネベの遺跡は、何世紀もの間、人知れず埋もれていましたが、1846年にオースティン・ヘンリー・レヤードによって発掘されました。彼をはじめとする発掘家たちの研究の結果、ニネベの町は当時の主要都市と言える見事な大都市だったことがわかりました。いくつか地図や写真をお持ちしたので、ご覧ください。

この地図は、ニネベの位置を示しています。イラク北部に位置し、現代のモースルと呼ばれる町の近くです。ご覧いただいてわかるように、ニネベはイスラエルの北東約 1,000 キロの場所にありました。

サテライトモードを使って拡大していくと、ニネベの壁周辺で発掘作業のされた場所を見ることができます。栄えていた当時のシミュレーション地図と実際の衛星写真を並べて比較してみましょう。ニネベは、創世記 10:11 にも登場する古代都市です。学者たちによると、ニネベのあった場所には、約 8,000 年も人が住んでおり、そのうち約 5,000 年は主要都市であったといいます。

ニネベの町に入る門は 15 あったといわれます。これは、復元された門の写真です。ご覧のとおり、ニネベの町は、外敵から町を守る巨大な壁に囲まれていました。ニネベは、乱暴な町という悪評があり、町の王は頻繁に戦争をしていたという記録が残されています。町のあちこちには戦いの場面を描いた壁画が刻まれており、戦いを好むニネベの文化は考古学的にも確認されています。

主はニネベの悪をご覧になり、そこに行って人々に語るようヨナに命じられました。ヨナは神の命令にどう応答したでしょう。**ヨナ 1:3「 しかしヨナは主から逃れようとして出発し、タルシシュに向かった。ヤッファに下ると、折よくタルシシュ行きの船が見つかったので、船賃を払って乗り込み、人々に紛れ込んで主から逃れようと、タルシシュに向かった。」**

主の言葉がヨナに臨みましたが、ヨナは逃げました。タルシシュの正確な位置については諸説ありますが、ずいぶん遠い西の方の町であったことはわかっています。それは、ニネベの正反対の方角です。ヨナは、一目散に主から逃れようとしました。

ヨナはヤッファに行きました。現代のヤファ港です。そこから船に乗りました。このときヨナが何を考えていたのか知る由もありませんが、この書の後半にその手掛かりが少しあります。どのような考えがあったにせよ、ヨナは主から逃げたのです。

年末は、これまでを振り返るのに適した時です。この一年のことを考えてみましょう。主との歩みを忠実に続けましたか。それとも、主から逃げていましたか。今朝皆さんはここにおられるので、タルシシュに逃げていないのは確かですが、船に乗って逃げなくても、主と主の命令から逃げることはできます。

私たちは、心の中で、また生き方で、主から逃げることがあります。神に明け渡していないものはありませんか。人間の心には、少なからず反抗心や高慢が隠れているものです。実際、聖書には非常に厳しいことばがあります。**エレミヤ 17:9** はこう言います。**「人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう。」** （新改訳）

私たちの心を見ておられるのは神です。**エレミヤ 17:10** にはこうあります。**「 心を探り、そのはらわたを究めるのは／主なるわたしである。それぞれの道、業の結ぶ実に従って報いる。」** 神は私たちの心や思いを探られます。私たちは本当の意味で神から逃げることなどできません。ヨナもきっとわかっていたでしょうが、人は感情的になると、うまくいかないと頭でわかっていてもしてしまうことがあります。

詩篇 139:7-10 はこう記します。**「 139:7 どこに行けば／あなたの霊から離れることができよう。どこに逃れれば、御顔を避けることができよう。 139:8 天に登ろうとも、あなたはそこにいまし／陰府に身を横たえようとも／見よ、あなたはそこにいます。 139:9 曙の翼を駆って海のかなたに行き着こうとも 139:10 あなたはそこにもいまし／御手をもってわたしを導き／右の御手をもってわたしをとらえてくださる。」**私たちがどこに行っても、主はそこに先におられます。神のみことばを信じて従うなら、主がともにいてくださると知って安心できます。しかし、神に反抗しているなら、主のご臨在に耐えられないでしょう。神のみことばに従っていないと、逃げ隠れしたくなるものです。

皆さんはどうでしょう。神から隠れようとすることがありますか。神のご臨在から逃げようとすることがありますか。そうしても、うまくいかないでしょう。私たちがどこにいても、神は私たちを見ておられます。どこに逃げても、そこで私たちを待ち受けておられるのです。

ヨナは逃げました。その後どうなったか、ご存知の方が多いと思います。ヨナは、エレミヤ書にある教訓を、身をもって学びました。**エレミヤ 23:23-24「 23:23 わたしはただ近くにいる神なのか、と主は言われる。わたしは遠くからの神ではないのか。 23:24 誰かが隠れ場に身を隠したなら／わたしは彼を見つけられないと言うのかと／主は言われる。天をも地をも、わたしは満たしているではないかと／主は言われる。」**

ヨナは、自分がやりたくないことを神に命じられたので逃げました。ニネベに行って、そこの人々に語りたくなかったのです。自分の身を案じていたのかもしれませんが、後半ではずいぶん勇敢に語っていますから、おそらくそれが原因ではなかったでしょう。ニネベの人々は異邦人で、

イスラエルにとって長年の敵であったことが、その理由だったと思われます。神のことばを聞くにふさわしい人たちではない、とヨナは思ったのでしょう。イスラエルの敵である町が滅びるのを、ヨナはずっと願っていたのではないでしょうか。

この一年、もしくは今現在、あなたのしたくないことを神に命じられていますか。日常のどこかで、神に反抗していたり、従うのを先延ばししていたりすることはありませんか。私たちの心の中や生き方にそのような部分があるなら、今日こそ悔い改めて神のもとへ立ち返るのによいチャンスです。葛藤があるなら神から逃げず、神のもとへ行きましょう。神の愛を信じましょう。

私たちも、詩篇の著者とともに次のように祈ることができます。**詩篇 86:3-5「 86:3 主よ、憐れんでください／絶えることなくあなたを呼ぶわたしを。 86:4 あなたの僕の魂に喜びをお与えください。わたしの魂が慕うのは／主よ、あなたなのです。 86:5 主よ、あなたは恵み深く、お赦しになる方。あなたを呼ぶ者に／豊かな慈しみをお与えになります。」**私たちが悔い改めて、主に従おうと思うなら、主は私たちを赦して、立ち直らせてくださいます。

IV. 結び

ヨナ書を学ぶにあたり、ヨナのことも、ニネベの町の人々のことも、神が深く愛されたことが分かるでしょう。ヨナの望まない働きへと神は召されましたが、その最終目的は、神の愛とあわれみをさらに深く教えることでした。主は逃げたヨナを見捨てたりなさいません。また、ニネベの町の人々についてもあきらめてはおられませんでした。イスラエルの人々は、なぜイスラエルの敵を神が滅ぼされないのかと思っていたでしょうが、神はすべての人に恵みあわれみを示そうと心を砕かれます。それは、イスラエルの敵であるニネベの町の人々に対しても同じです。**ペトロ第二 3:9**が宣言するとおりです。**「 ある人たちは、遅いと考えているようですが、主は約束の実現を遅らせておられるのではありません。そうではなく、一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです。」**

V. 祈り